

平成29年度 第1回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日 時 平成29年5月24日（水）午前10時～正午
2. 場 所 大和市生涯学習センター601講習室
3. 出席状況 委員8名（深澤会長、小林委員、古谷田委員、鈴木委員、服部委員、伏見委員、吉川委員、米屋委員）
事務局5名（文化スポーツ部長、文化振興課長、文化振興担当3名）
4. 傍聴人 なし
5. 次 第
 - 1 開会
 - 2 平成28年度 実績報告について
 - 3 文化芸術に関するアンケート調査（やまとeモニター）について
 - 4 「文化芸術の力で大和市を輝かせるためには」の今後の検討内容について
 - 5 やまと芸術文化ホールの運営状況について
 - 6 閉会
6. 会議資料
 - 大和市文化芸術振興基本計画[第2期]平成28年度実績報告
 - 文化芸術に関するアンケート調査（やまとeモニター）まとめ
 - 「文化芸術の力で大和市を輝かせるためには」今後の検討内容について
 - やまと芸術文化ホールの運営状況について

【会議要旨】

- 1 開会
 - 新任委員の紹介、挨拶
 - 文化スポーツ部長より挨拶
- 2 平成28年度 実績報告について
 - 市から、「大和市文化芸術振興基本計画[第2期]平成28年度実績報告」について説明。
 - 意見交換

委 員：文化財や歴史文化施設の周知について、学校授業の一環で施設を訪れるような取り組みは出来ないか。立派な施設ではあるが、上手く活用されていないように感じる。子どもたちが授業で訪れるような仕組みができれば、その後家族とともに再度訪れるなどの発展もあり得るのではないか。

事務局：学校の要望があれば、社会科見学として施設に来ていただき、見学や展示物の解説などの対応を行っている。施設を訪れる学校は毎年企画展等に合わせて来館しており、歴史文化施設を管轄している市史・文化財担当でも企画展のPRのためのチラシを作成している。教育委員会の協力をいただいて、社会科の先生を通じて子どもたちに周知してもらおうなどの取り組みを行っているが、授業のカリキュラムなどの制限があり、全校で実施するという飛躍的な拡大は難しい状況である。

委 員：神奈川県民ホールに子どもたちを連れていき、プロ劇団の演劇を鑑賞していたと思うが、大和市にも芸術文化ホールが完成したので、劇団を呼ぶことができれば、より多くの子どもたちに鑑賞してもらおうことができるのではないか。

事務局：芸術文化ホールでの小学生への演劇鑑賞はすでに実現しており、来年度以降も継続して実施していく予定である。

委員：これまでの神奈川県民ホールでの鑑賞では、席数等の関係で対象学年の3分の1程度しか鑑賞に参加できなかった。この芸術文化ホールでは、午前・午後の2回公演を行うことで、対象学年の児童全員が演劇鑑賞をすることができたと聞いている。鑑賞した子どもたちがとても感動していたのが印象的であった。

委員：大和市全体の文化芸術の振興施策は精力的に取り組まれているので、少しずつ変わっているという実感はあるが、一方で、民俗文化のような地域に伝わる文化についてはどのように取り組まれているのか。市民の間でも、地域には伝統的なものがあるらしいという漠然とした認識しかされておらず、なかなか浸透していないように感じる。このような地域に伝わる文化を積極的に打ち出し、市民が共有することも、文化芸術を発展させる一つの力になるだろう。

事務局：民俗文化を明確化することはなかなか難しいが、取り組むべき課題であると認識している。また、文化財などの歴史的文化は、大切にしなければいけないという一般的な理解はあるものの、他の芸術文化等に比べてPRが難しいというのが問題である。

委員：文化情報の発信について、神奈川県が「マグカル」と称して県内の文化情報を取りまとめているが、「大和市」と検索しても出て来ず、「県央」、「湘南」などの大雑把な地域名でしか表示されないのが非常にもったいないと感じている。

この神奈川県の「マグカル」を改良するよう働きかけてこれを活用するか、大和市独自のサイトを作成するのが良いか、2つの手段があるだろう。

また、文化庁では文化情報プラットフォームの作成を進めている。共通の登録サイトを作成し、オープンデータとして自由に引き出して加工できるようにするものである。

このような周囲の諸状況を鑑み、活用できるものは活用しつつ、連携が必要になった際はスムーズに移行できるようフォーマットを同じものにするなどの工夫が必要だろう。

事務局：「マグカル」については承知をしている。指定管理者が主催する事業は、神奈川県に働きかけをしているので、今後掲載されるようになるだろう。現在検討している大和市独自の文化情報サイトは、文化芸術イベントのほか、先ほど課題にも挙げられた地域の文化の紹介や、大和市内のアーティスト情報の掲載も検討しているため、やはり大和市独自のサイトが必要であると考えている。

「マグカル」や他の文化情報サイトについてもリンクを貼るなど活用できるものは活用していきたい。

3 文化芸術に関するアンケート調査（やまとeモニター）について

○市から、「文化芸術に関するアンケート調査（やまとeモニター）まとめ」について説明。

○意見交換

会長：登録している回答者に偏りはあるのか。

事務局：他の年代に比べ、若い世代の登録は少ない。そのため、年代による傾向の比較をしても、その精度に差が出てしまう。全体の登録者数も減少傾向にあるようなので、今後調査を行う際は、別の方法を検討する必要があるかもしれない。

委員：今回の調査結果は、全国的な傾向に沿っているように感じる。絵画や書の公募展などを実施しても、若い世代からの出品が少なく、将来継続して開催できるかを危惧していると聞いた。学生時代に芸術の勉強を一生懸命していても、それを生業として生計を立てるのが難しく、他の職についてしまうという社会環境が原因かもしれない。一方で、6

0代以上の年代は現役時代に一生懸命仕事をしてきた世代なので、文化芸術に興味、関心が向かないというのも分かる。

委員：芸術文化ホールの完成を機に、これまで市内各地で実施されていた活動が中央へ集中してしまっている。新しい施設で開催することで、イベントが注目されることは良いことだが、これまで積み重ねた地域での文化活動も大事にしなければいけない。また、指定管理者は利益を生み出さなければならないという特性上、質が高く、人気のあるイベントを開催する傾向にある。それ自体は悪いことではないが、もう少し地域での活動に目を向け、地域と連携した事業を展開して欲しいと思う。

4 「文化芸術の力で大和市を輝かせるためには」今後の検討内容について

○市から、「文化芸術の力で大和市を輝かせるためには」今後の検討内容について」説明。

○意見交換

意見無し

5 やまと芸術文化ホールの運営状況について

○市から、「やまと芸術文化ホールの運営状況について」説明。

○意見交換

会長：服部委員におかれては、指定管理者の運営評価を行う大和市文化創造拠点運営審議会に、この審議会を代表して出席している。今日は芸術文化ホールの運営に関する意見交換を行い、これを審議会の意見として集約したい。

委員：シリウスで展示会を開催したが、実に様々な方が来られ、新たな出会いのきっかけにもなった。今後はそのような方がスムーズに活動へ参加できるための仕組みづくりが必要になると強く感じた。

委員：ギャラリーは展示の設営を終わらせてしまうと、照明を調整するための梯子を搬入できなくなってしまい、天井の照明を調整することができない。他の会場では照明の向きを変えるための治具があり、展示をしてからでも調整をすることができる。効果的な展示のため、用具を整備して欲しい。

委員：シリウスには県内だけでなく全国から視察が訪れていると聞いたが、施設内に大和市の地図がなく、周辺を案内することができていないようだ。せめて、周辺で行われている文化事業やスポットを紹介するような冊子を置いてはどうか。シリウスだけが注目されて、周辺のことが全く分からない。施設全体の管理は指定管理者が行うものだが、例えば共用部分のエントランスは市が主導しても良いのではないか。シリウスへ行けば、地域の情報が十分に行き渡るという仕組みを作るべきである。

委員：他の自治体では指定管理者だけでなく行政や民間の団体などを交えた広報委員会を設置し、その会議のなかでPRする催しを検討する取り組みを行っている。市が主体となって全体を掌握しながら広報計画などを主導して欲しい。

会長：本来、シリウスには市内の文化情報を発信するセンター機能としての役割が期待されていたと思うが、現状ではそうになっていないのだろう。

委員：ホールと事務所が遠く、連絡がなかなか取れない。ホールでリハーサルや本番などで連絡を取りたくても電話では担当者につながらないことが多い。仕方がなく、衣装を着たまま事務所まで赴くという大変不便な状態になってしまっている。

委員：正面入口から入ると総合案内が背面にあるため、はじめて訪れた方がどこへ向かえばよいか分かりづらい。エントランスのあり方をもっと工夫すべきである。

- 委員：エントランスに設置している総合案内には施設や市内の情報が見当たらないため、イベント観光協会が実質の総合窓口となって各種の案内をしている状況である。
- 委員：総合案内を示す標識（サイン）が「？（クエスションマーク）」しかなく、分かりづらい。受付の担当者も他のスタッフと同化してしまい、誰に聞けばいいかがわからず、対応もスタッフによって温度差を感じる。もっと市民に寄り添った対応をお願いしたい。
- 会長：現在総合案内を担っているのは指定管理者か。施設内の案内に留り、市全体のPRをできないのはとてももったいない。例えば、市内の文化施設を動線で結ぶ「お散歩マップ」のようなものを作成してはどうか。それぞれのニーズに合わせ、徒歩版とサイクリング版が欲しい。大和市内にある横浜水道道や畑地灌漑道路はとても面白い道なので、シリウスを中心にこれらを利用して歩いて（走って）もらえば、市全体の地理的な土地勘も生まれる。そのような仕掛けがあればシリウスを訪れる方も、そこを拠点にネットワークに結び、他へ行きやすいただろう。
- 委員：施設の総合案内がわからない、わかりづらいというのはどこで聞いても共通の課題である。特にシリウスはホールの他に学習センターや図書館、子ども広場などが入る複合施設である。総合案内の役割は重要なので、レイアウトの変更も検討した方が良い。
- 委員：図書館は今後おもしろい展開になるだろう。例えば、これまで図書館でイベントを開催しても、その存在を知り、足を運んだ人しか参加されなかったが、今は参加するのにハードルが下がり、たまたまその場に立ち寄ったような方がイベントに参加している。知っている人だけが行く図書館から、気軽に立ち寄れる図書館への変わりように期待をしている。
- 委員：市内の学校では助成金を活用して芸術鑑賞を実施している。しかし、学校によっては手の空いている先生が担当しており、その担当者が必ずしも文化芸術に精通しているとは限らない。一方で、指定管理者はイベントや文化芸術に関する知識が豊富なので、その知識を活用して学校に上手くアドバイスできるような仕組みができれば、より有効な芸術鑑賞が可能になる。
- 委員：電話窓口でチケット購入をすると座席が指定できないのが不便である。
- 委員：広報に関して、民間の力を活用するという方法もある。大和市には鉄道駅が多くあるので、例えば路線の全駅に広報を依頼するなど、鉄道会社に協力して大和市を売り込む取り組みはできないだろうか。また、自治体公認でご当地のお店を紹介する会社があり、地方活性化・地方創生の担い手となっている。これは食文化の紹介だが、芸術文化に置き換えて活用できるかもしれない。
- 会長：意見は尽きないが、時間に限りがあるので意見交換はここまでとする。事務局からさらに聞いておきたいことなどがあれば伺う。
- 事務局：指定管理者の運営評価は今年度が初年度ということもあり、詳細はまだ決まっていないが、今後の芸術文化ホールに期待する役割などのご意見はいただきたいと考えている。このことについてご意見のある委員は事務局までお送りいただきたい。本日の意見交換の内容も含めて集約し、服部委員にお渡しさせていただく。

- ・市から、次回の開催日程について説明。

6 閉会